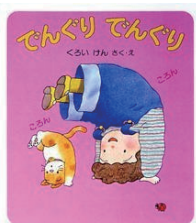
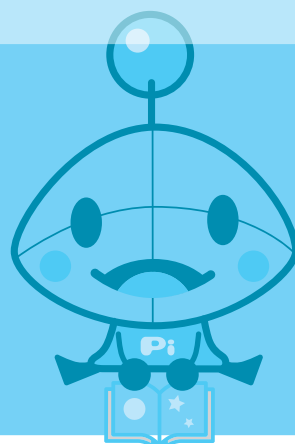


年齢別絵本リスト

2さい

1歳のときに芽生えた「自我」がふくらんで「自我の確立」に向かうのがこの時期。何でも自分でしようとする気持ちが高まるので、生活面の描かれた絵本や、簡単なストーリー性のあるものも楽しめるようになります。



でんぐり でんぐり

くろいけん／さく・え
あかね書房

動物たちといっしょに「でんぐり、でんぐり」。運動機能も少しずつ発達してきて、でんぐりかえしにも興味が出てくる時期ですね。



のせてのせて

松谷みよ子／文
東光寺啓／絵
童心社

車などの乗り物に興味が出始める子どもたちにはたまらない1冊。まるで自分が運転手さんになったかのような感覚が楽しめます。



おおきなかぶ

ロシア民話

内田莉莎子／訳
佐藤忠良／絵
福音館書店

「うんとこしょどっこいしょ」の掛け声を聞くと思わず一緒に体を動かしたくなります。この単純な繰り返し子どもにとって楽しいのでしょう。



どうすればいいのかな？

わたなべしげお／ぶん
おおともやすお／え
福音館書店

何でも自分でやってみようとする時期。考えて学んで成長する姿を見守ってあげたいですね。くまくんのしぐさが可愛い絵本です。



タンタンのハンカチ

いわむらかずお／作
偕成社

おまじないの言葉をとなえると、どんどん大きくなっていくハンカチ。「こんなハンカチがあったらなあ」と子どもの想像力をかきたてます。



みんなうんち

五味太郎／さく
福音館書店

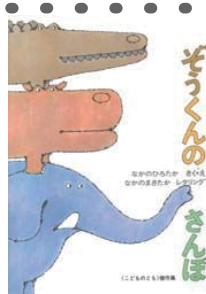
うんちがトイレで出来るようになって自然や体のことにも関心を持ち始める時期です。身近なことが描かれた絵本に出会わせてあげたいですね。



はけたよはけたよ

かんざわとしこ／ぶん
にしまきかやこ／え
偕成社

紙パンツから布パンツへの移行期も終わり、自分で着脱を頑張る子どもを優しく見守ってあげる本です。



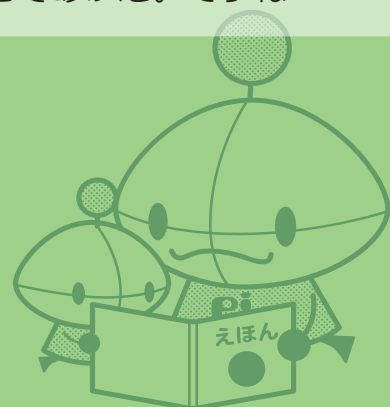
ぞうくんのさんぽ

なかのひろたか／さく・え
福音館書店

まるで積み木のように、ぞうさんの上にどんどん動物たちがのっていき姿にワクワクします。

3さい

3歳になると、家族以外の人気がになり始め、友達との「ごっこ遊び」もさかんになります。イメージのふくらみが豊かになり、物語を理解する力もついてくるこの時期は、ストーリー展開がしっかりした絵本に出会わせてあげたいですね。



あおくんときいろちゃん

レオ・レオーニ／作
至光社

絵の具で描かれた「あお」や「きいろ」のまるがいきいきと動きまわるシンプルな絵ですが、ストーリーはしっかりしています。作者が孫のために作ったといわれる作品です。



しょうぼうじどうしゃ しんた

渡辺茂男／さく
山本忠敬／え
福音館書店

子どもが大好きで大人気のしょうぼうじどうしゃ。真っ赤な車体にあのサイレン！スピード感あふれる文と絵で子どもたちを夢中にさせます。



三びきのやぎの がらがらどん

マーシャ・ブラウン／え
せたていじ／やく
福音館書店

アスビョルンセンとモーの北欧民話。物語の構成がわかりやすく、長い間子どもたちに愛され続けている絵本です。



ちびゴリラのちびちび

ルース・ボーンスタイン／さく
いわたみみ／やく
ほるぷ出版

子どもの成長を見守り、お誕生日をお祝いする本です。家族や友達、周りの人たちから愛される安心感が伝わってくるようです。

どろんこハリー



どろんこハリー

ジーン・ジオン／ぶん
マーガレット・ブロイ・グレアム／え
福音館書店

登場人物や動物のいきいきとした表情に引き込まれます。場面割りに優れ、テンポ良く楽しめる1冊です。



ねずみくんのチョコッキ

なかえよしを／作
上野紀子／絵
ポプラ社

人気のシリーズの第一作！サイズの大きな動物が順々に登場し、最後は一体どうなってしまうのでしょうか。ハラハラドキドキします。



もりのなか

マリー・ホール・エッツ／ぶん・え
まさきりこ／やく
福音館書店

すべて白黒の挿絵で不思議な世界を演出しています。子どもはあっという間にこのファンタジーの世界に引き込まれていくことでしょう。



てぶくろ

エフゲーニ・ラチョフ／え
うちだりさこ／やく
福音館書店

ウクライナのお話です。大きな手袋の中に「入れて」「どうぞ」の繰り返し。楽しく、物語も単純でおぼえやすいので「ごっこ遊び」に良いかもしれませんね。